

JapanFlux 10周年記念集会 口頭発表プログラム

2018年2月20日（火）

◎JapanFlux 10周年記念集会 – 第1部 – (12:30-18:00)

セッション0 オープニング 12:30

開会あいさつ（三枝）、JapanFlux歴史（市井）

時間 **セッション1 《サイト観測とそのネットワーク化1》** 12:45-15:45

12:45 (15)	山野井 克己	森林総合研究所	森林でのタワーフラックス観測ネットワークの構築と長期モニタリング – FFPRI FluxNetの例を中心に –
13:00 (15)	梁 乃申	国立環境研究所	チャンバーネットワークを用いて地球規模の温暖化影響の解明
13:15 (15)	加藤知道	北海道大学農学研究院	太陽光誘起クロロフィル蛍光の観測ネットワーク化とモデル利用
13:30 (15)	平野高司	北海道大学	熱帯泥炭生態系の炭素動態の解明を目指したフラックス研究
13:45 (15)	高橋善幸	国立環境研究所	富士北麓カラマツ林における間伐影響の長期モニタリング
14:00 (15)	太田岳史	名古屋大学生命農学研究科	ロシア・東シベリアのスパスカヤ・パッドにおける過去の観測状況と今後の役割
14:15-30	休憩		
14:30 (15)	小野圭介	農研機構・農業環境変動研究センター	真瀬サイトにおけるフラックスの長期モニタリング
14:45 (15)	林 健太郎	農研機構・農業環境変動研究センター	大気-水田間の窒素交換モニタリング
15:00 (15)	谷 晃	静岡県立大学	反応性有機ガス成分の植物と大気間の交換
15:15 (15)	宮崎雄三	北海道大学低温科学研究所	大気有機エアロゾルから探る大気-陸域生態系の相互作用
15:30 (15)	植山雅仁	大阪府立大学	陸域生態系のメタン収支の理解に向けた多地点観測に基づくデータベース構築
15:45-16:00	休憩		

セッション2 《社会貢献(パリ協定、Future Earthなど)》 16:00-16:45

16:00 (30)	安岡善文	千葉大学	研究における観測データを社会の変革にどう繋げてゆくのか？ – SATREPS, Future Earth, SDGs の取り組み –
16:30 (5)	檜山哲哉	名古屋大学	話題提供
16:35 (5)	町村 尚	大阪大学	話題提供
16:40 (5)	市井和仁	千葉大学	話題提供

ポスターセッション (17:00-18:00)

19件 (2018年2月7日現在)

2018年2月21日（水）

◎JapanFlux 10周年記念集会－第2部－（9:00-13:00）

時間	セッション3 《サイト観測とそのネットワーク化2》	9:00-10:10
9:00 (15)	市井和仁 千葉大学	フラックス観測網と衛星データを利用した広域フラックス研究の現状
9:15 (15)	新井宏徳 東京大学生産技術研究所	地上フラックス・衛星データを融合した水稻栽培由来のメタン発生量の時空間分布評価手法の開発
9:30 (15)	古田尚輝 日本大学生産工学部	航空機LiDARデータを用いた北海道落葉広葉樹における炭素固定量の推定
9:45 (25)	伊藤昭彦 国立環境研究所	パリ協定に向けた陸域生態系モデルによる温室効果ガス収支評価
10:10-10:25	休憩	
	セッション4 《コミュニティ連携》	10:25-11:50
10:25 (15)	奈佐原 顕郎 筑波大学	JapanFluxと共に歩んだPEN (Phenological Eyes Network)の15年間
10:40 (15)	小林秀樹 海洋研究開発機構	アラスカ・ポーカーフラットフラックス観測スーパーサイト：AmeriFluxとしての活動と研究成果
10:55 (15)	斎藤琢・ 村岡裕由 岐阜大学	JaLTERの紹介とネットワーク間連携
11:10 (20)	檜山哲哉 名古屋大学宇宙地球環境研究所	これからの JapanFlux と iLEAPS / Future Earth
11:30 (20)	熊谷朝臣 東京大学	「全部自分でやる」という気合が大事
11:50-12:00	休憩	
	セッション5 《JapanFluxの今後（議論）》	12:00-12:45
	まとめ/閉会 ※13:00 終了予定	